

自然エネルギー：ミニ学習（91）高野市長との二回目の懇談報告

文責 宮井

（一）高野市長との2回目の懇談を行いました。

3月議会のさなか、3月13日午後2時から30分間、高野市長と懇談しました。会からは8名が参加しました。

府中市は高野市政2期目で「スマートエネルギー都市構想」を掲げたことを受けて、特に「地球温暖化対策推進計画の見直し」であらたな「施策」として付け加えられました。

この計画のパブリックコメントで府中市は

「スマートエネルギー都市の構築にあたりましては、市のみならず、事業者や学校との協働により、市民意見を 取り入れながら推進する必要があると認識しております。組織整備を含め、計画期間内の具体化に向け、情報収集や市内外の事業者、関係機関との調整に努めてまいります。」との方針を示しました。

そこで懇談のテーマは「これからどのように進めてゆくのか」という点に集中しました。会は「会報 NO94」を高野市長にお渡しし、競馬場の施設を見学したことも紹介して各地のスマートエネルギー都市づくりの現状を説明し、「農工大との連携の打診」を中心に提案しました。最後に最近、入手した重要な資料を市長に贈呈しました。

（二）懇談のやりとり

冒頭、高野市長は

「2期目に当たり、どこかに書き込んでおかないと進まない・・・と思った。」「一年経過して担当職員の“意識づけ”にはなっていると思う」と抱負を語りました。

「給食センター」の建設の進行と「市長舎」の基本設計等に続いて、建設への着手を待たず小中学校の建て替え（長寿命化）が課題になっており、建物建設にあたり環境への配慮をして行きたい」と語り、懇談に入りました。以下、順次やりとりを詳報します。

1. すでに詳細設計と建設に着手している給食センターが話題になったので

会は「昨年の懇談のあと、太陽光発電しながら同時に熱で給湯できるハイブリッドタイプのパネルのカタログをお送りした。今年調べたら、同じタイプの他社の製品も出てきている。」とあらたに資料をわたしました。市長は「こういうタイプがあるのですか」と資料に見入りました。

「詳細設計を終えても技術の進展は日進月歩なので、担当者にお伝え下さい」とお願いしました。

2. 建物の話題が先行したので、今後の建物については

会「新しい大きな建物については、日本も欧州に続いてゼロエネルギービルの規格を決定しようとしています。」

高野市長「今、市庁舎は詳細設計に入っているが、自然光による採光など工夫している点はあるが、“ゼロエネ”までは入っていません」

会「たしかにまだ規格は決定されていません。ただし着工にかかる頃には決まる可能性があり、微妙な時期にあります。100年持たせる建物なので、じっくり構えるべきです。地中熱の利用も検討したようだが、当面のコストだけでなく100年にわたる維持管理コストで評価すべきだと思います。」

高野「地中熱はみどり東京のイベントで“みなとパーク芝浦”の建物で地下水を利用した地中熱のことを知り、検討させました。場所によるようですね」

会「たしかに寒冷地などで効果が大きいとされていますが、100年コストの観点でもう一度、見直しを期待します。」

3. 農工大との協力関係について

高野 「農工大との提携についての提案は有難い。農工大とは、すでに包括的な協定を結んでおり、作物関係や、姉妹都市である佐久穂の白樺樹林を守る件ではすで協力を得ています。スマートエネルギーの具体的なテーマで何が可能か、私のほうでも動いてみたいと思います。」

会 「個々の研究者は、自分の研究に手いっぱいなので大学が全体として地域貢献で大きな枠組みをつくってそれに個々の研究者が専門的な立場から応じるようになれば・・・と思います」

4. 企業等の協力について

高野 「再エネ技術を有する T 社など大手 9 社からなるグループで、3・11を機に企業防災会議というものがあります。年一回の集まりですが、スマートエネルギーでも話し合えれば・・・」

会 「ほかにも協力いただける企業があると思います。防災というテーマで母体があるのであれば、緊急時の再エネ利用という切り口から具体化して行く方法もあると思います」

高野 「いきなりハードを揃えるのは大変なので、アピールして市民の理解を得ながら進めるつもりです」

5. 地域連携について

高野 「地域のつながりでは大学では農工大、外語大、電通大、学芸大まで広げるとよいでしょうね。行政区では国分寺、小金井でしょうかね」

会 「行政区は人が決めたもので自然が決めたわけではない。再エネ利用の自然的条件を具体的に検討するときには、地域連携の考え方は大切だと思います。」

高野 「多摩川については中流域の自治体が水の利用で年に 2.3 回話し合っています。」

6. 他市との提携について

会 「府中市は宝塚市と提携していますね。広報に載っていました。」

高野 「競馬場の関係で宝塚、船橋市とつながりがあり、必要なときは職員派遣もする間柄です。」

会 「宝塚市は市民電力があり、再エネ条例も制定しています。こうした経験を聴いてみてはいかがですか」

高野 「参考にさせていただきます。」

(三) 懇談を終えて

高野市長は、トップならでは・・・の情報を持っており、有意義な懇談でした。トップの意向を受けて具体的に展開する上級の管理職が、どのような展開をするのかが問われていると思われます。



(四) 参考

<http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/kankyo/energy/> 宝塚市のエネルギーに関する施策が掲載されています。